

FUJITSU Software NetCOBOL

ライセンス : Solaris (32bit)

2021年7月20日時点

購入製品が開発・運用環境製品か運用環境製品かによってライセンスの考え方、購入方法が異なります。

1. 開発・運用環境製品	2
1.1 開発・運用環境製品を新規に購入する場合	2
2. 開発・運用環境製品	5
2.1 運用環境製品を新規に購入する場合	5
3. 注意事項	7
3.1 旧製品(Sun 日本語 COBOL、COBOL 拡張セット、PowerCOBOL97、NetCOBOL 旧バージョン製品) をご使用の場合	7
3.2 旧製品との互換性	7
3.3 ライセンス	9
3.4 クラスタシステムにおける製品のライセンス	11

1. 開発・運用環境製品

1.1 開発・運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

開発・運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、CD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途プロセッサライセンスを購入ください。製品の導入にあたり、1 本以上のメディアパックが必要です。
- プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。
 - シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
 - マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。**(注)**

注) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、「[必要なライセンス数の算出方法](#)」を参照してください。

クラスタシステムにおける開発・運用環境製品のライセンス

Solaris の開発・運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。この場合、ご使用になる NetCOBOL シリーズのバージョンにより、必要となるライセンス数が異なります。詳細は、[クラスタシステムにおける製品のライセンス](#)を参照してください。

開発方法

Solaris では、以下の開発方法があります。

- [Solaris 環境で開発/運用する方法](#)
- [Windows 環境を利用して開発し、Solaris 環境で運用する方法](#)

Solaris 環境で開発/運用する方法

製品名	用途
NetCOBOL Base Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	COBOL コンパイラ、ビルダなど COBOL アプリケーションを作成できる開発環境
NetCOBOL Standard Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	きめ細やかな帳票印刷、画面操作、Web 業務など本格的なビジネス基幹アプリケーション開発環境(注 1)
NetCOBOL Professional Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	設計から保守にわたる開発のライフサイクル全般を支援する統合開発環境(注 1) (注 2)
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	大規模基幹システム向けに、高性能データソート・マージ(PowerSORT を組込み)、帳票出力、Java 連携機能、 Interstage Business Application Server 連携 が利用可能な総合開発環境(注 1) (注 2)

注 1) 画面帳票設計ツールが含まれていないので、Windows 環境配下で画面帳票設計ツール(FORM)を別途購入する必要があります。

注 2) Solaris で開発・保守支援機能として提供しているのは、テスト作成支援とプラットフォーム間の移行支援です。

Windows 環境を利用して開発し、Solaris 環境で運用する方法

Windows 開発環境で提供している分散開発機能（リモートビルド、リモートデバッグ機能など）を利用して、Windows 環境で開発することができます。この場合、Windows クライアントには、開発するマシンの台数分だけ、Windows 開発環境製品が必要です。また、Solaris サーバには、Solaris サーバに搭載されているプロセッサ数に応じて、Solaris 開発環境製品のプロセッサライセンスが必要となります。

詳細については、Windows NetCOBOL「UNIX 分散開発の手引き」または「NetCOBOL Studio ユーザーズガイド」を参照してください。

なお、Windows (64bit) NetCOBOL は、V10.2.0 以降を使用してください。

開発環境	製品名
Windows (32bit)環境	<p>用途に合わせて、以下のいずれかの製品をお選びください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) • NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)
Windows (64bit)環境	<p>用途に合わせて、以下のいずれかの製品をお選びください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (64bit) • NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (64bit) • NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)
Solaris 環境	<p>用途に合わせて、以下のいずれかの製品をお選びください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NetCOBOL Professional Edition 開発・運用パッケージ (32bit) • NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)

2. 開発・運用環境製品

2.1 運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、CD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途プロセッサライセンスを購入ください。製品の導入にあたり、1 本以上のメディアパックが必要です。
- プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。
 - シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
 - マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。**(注)**

注) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、「[必要なライセンス数の算出方法](#)」を参照してください。

クラスタシステムにおける運用環境製品のライセンス

Solaris の開発・運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。この場合、ご使用になる NetCOBOL シリーズのバージョンにより、必要となるライセンス数が異なります。詳細は、[クラスタシステムにおける製品のライセンス](#)を参照してください。

製品種別

開発・運用環境製品で作成された 32bit COBOL アプリケーションを動作させるための運用環境製品を用意しています。使用された開発環境製品に合わせて、運用環境製品をご購入願います。

開発環境製品	運用環境製品
NetCOBOL Base Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	NetCOBOL Base Edition 運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Standard Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	NetCOBOL Standard Edition 運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Professional Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (32bit)

3. 注意事項

64ビットアプリケーションを開発および運用する場合は、64ビット版NetCOBOL商品を別途、購入してください。

32ビット版と64ビット版は、同じコンピュータにインストールして利用する事ができます。その場合は、両方のメディアパックとライセンスをそれぞれ必要数分購入してください。

3.1 旧製品(Sun 日本語 COBOL、COBOL 拡張セット、PowerCOBOL97、NetCOBOL 旧バージョン製品)をご使用の場合

最新の NetCOBOL 製品は、旧製品の機能を包含しており、互換性を保っております。旧製品をご使用のお客様は、最新の NetCOBOL 製品へバージョンアップすることをお勧めします。

[旧製品との互換性](#)

バージョンアップする場合

NetCOBOL シリーズ V8.0 以降は、サポート契約されているお客様のみバージョンアップ（無償）が可能です。サポート契約されていないお客様は、新規購入となります。ご注意ください。

| [「SupportDesk」のご紹介](#) | [SupportDesk「お客様専用ページ」](#) |

注意事項

Solaris(32bit)の旧バージョンからのみバージョンアップが可能です。

Base Edition から Standard Edition へのアップグレードなどの Edition アップグレード手配はご用意していません。このような場合、新規に製品をご購入願います。

3.2 旧製品との互換性

Solaris(32bit)では、旧製品(注)の機能を包含しており、基本的に互換を保っておりますが、一部マニュアルどおり作成しない場合など COBOL アプリケーションが正しく動作しない場合があります。

互換に関する情報については、製品ドキュメントの「リリース情報」を参照してください。

注) 以下の製品を、Solaris の「旧製品」と定義しています。

- PowerCOBOL97 6.0 / 6.1 または PowerCOBOL97 Std 6.0/6.1
- COBOL 拡張セット 1.0/2.0
- Sun 日本語 COBOL1.1

- Sun 日本語 COBOL1.0.1

資産移行

上記のとおり、旧製品の機能を包含しており、同レベルの製品間での COBOL ソースなどの資産はそのまま利用することができます。

また、旧製品で作成した COBOL アプリケーションの動作についても、以下のとおり動作可能です。

運用製品	NetCOBOL Base Edition 運用パッケージ NetCOBOL Standard Edition 運用パッケージ NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ
	(注 1)
Sun 日本語 COBOL 1.0.1	(注 2)
Sun 日本語 COBOL 1.1	○
COBOL 拡張セット 1.0/2.0	○
PowerCOBOL97 6.0/6.1 または PowerCOBOL97 Std 6.0/6.1	○

注 1) PowerCOBOL97 Std の場合は、NetCOBOL Standard Edition または NetCOBOL Enterprise Edition になります。

注 2) 表示ファイル機能を使用する場合は再リンクが必要です。

3.3 ライセンス

Solaris V9.0 以降では、「メディア（CD-ROM）」と「ライセンス（使用权）」が分離された形態となっています。NetCOBOL をインストールするサーバマシンに搭載されている CPU 数分のプロセッサライセンスを購入してください。

製品名	説明
メディアパック	CD-ROM 媒体のみの製品です。 メディアパックには、ライセンス（使用权）は添付されておりませんので、別途プロセッサライセンスの購入が必要です。
プロセッサライセンス	動作するサーバマシンに搭載されている CPU 数分の購入が必要です。 1CPU 分のプロセッサライセンスが添付されています。

MeFt/Web クライアントのライセンスについて

- Standard Edition、Professional Edition および Enterprise Edition 製品には、Windows クライアントにて動作する MeFt/Web クライアントが含まれています。
- MeFt/Web クライアントは、複数の Windows クライアントにインストールして使用することができます。

SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントのライセンスについて

- Professional Edition および Enterprise Edition 製品には、SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントが含まれています。
- SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントは、1 台の Windows クライアントにインストールして使用することができます。
- SIMPLIA/TF-LINDA(COBOL)クライアントを複数の Windows クライアントにインストールして使用する場合、追加クライアントライセンスを別途購入する必要があります。

3.4 クラスタシステムにおける製品のライセンス

開発・運用環境製品および運用環境製品をクラスタ構成されたシステムでの運用に使用する場合、ご使用になる NetCOBOL シリーズのバージョンにより、必要となるライセンスが異なりますので、ご注意ください。

V9.1 以前

クラスタ構成されたシステムでの運用に使用する場合、相互待機形態 (Active/Active)、運用待機形態 (Active/Passive)に関わらず、各サーバに製品を購入する必要があります。

V10

運用待機形態 (Active/Passive)で運用する場合、通常運用時に待機ノードと なっているサーバで、運用ノードで購入した製品を使用できるようになりました。待機系ノード分のプロセッサライセンスの購入は不要です。通常運用時に待機ノードとなっているサーバには、運用ノードで購入したプロセッサライセンスをご利用ください。